

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 有限会社 さとほろ.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・重度化が進む中で、どこまで自立支援の姿勢を基本に一人ひとりの出来る力を見出し関わっているか...と振り返った時に、正直難しい面が少なくない現状がありますが、「分からなくなった、出来なくなった」と評価するのではなく、「これは出来る、こんなことが出来た」の発見につなげる意識を持って努力しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tr...

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は高層ビルが立ち並ぶ札幌市中央区にあり、6階建てマンションの3・4階のフロア全てがグループホームとなっている。市街地の中心部にあり、地下鉄駅から近く利便性の良い地域にある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを意識し、職員全体で意見を出し合い作成した。『地域に根差し、知恵と工夫と創造力を持ち、ゆったりとした毎日が過ごせるよう、ひとりひとりの楽しみと健康と安全を考慮しながら、家族の協力を得つつ学び支えます。』という理念がある。毎朝の引き継ぎ時に理念を唱和し、理念を共有、実践出来るよう努めている。	地域密着型サービスを踏まえ、職員全員で話し合い作成している。理念の下、今年度は「チームで取り組み、可能性を広げる」「いつも笑顔を忘れず人にはもっと優しく」という年間目標を決め、ケアに取り組んでいる。理念や目標はパンフレット・玄関・居間・事務所に掲示している。職員の名刺の裏側に理念を印刷携帯し、カンファレンスや毎日の引き継ぎ時に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶等は積極的に行い、事業所の存在を知ってもらえるよう努めている。町内会の活動として、総会、春秋のゴミ拾い、花壇整備への参加。夏祭り、保育園の運動会、お餅つき等の行事へ、入居者の方と参加させてもらい交流している。	町内会に加入し、総会や町内会の行事に積極的に参加している。市内で加入世帯が一番多い町内会で、会報を年2回150部回覧板で閲覧してもらい、地域から相談や施設見学の申し込みを受けている。近隣の幼稚園の運動会に招待されたり、清掃ボランティアの協力がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護タクシー、居宅介護支援事業を通して活かすことに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第二水曜日に運営推進会議、家族会を開催し、報告、情報交換、意見交換、質問の場として定着している。報告書を全ご家族へ、職員へも内容を周知し、日々のケアに役立てサービスの向上につなげられるよう努めている。	年6回偶数月の第二水曜日と日時を決めて、会議を開催している。地域包括センター職員・民生委員(町内会代表)・家族・職員が参加し、利用者の様子・行事・運営・サービス内容などを報告し、情報や意見交換をしてサービス向上に努めている。委員からの提案で近隣の中学生の職場体験や介護教室を開催し、認知症の啓蒙に努めた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者会議に出席、運営推進会議(家族会)の報告、事故報告、他不明な点や疑問点等についても報告、相談をしながら、適正なサービスの提供、ケアの質の向上につなげられるよう努めている。	市や区のグループホーム管理者連絡会や地域運営会議などに参加し、行政担当者や同業者と情報交換を図っている。毎月の利用状況報告時や必要時には指導を受けるなど協力関係を築くよう努めている。生活保護受給者には保護課と連絡を取り合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加、内部研修でも繰り返し学ぶ機会を設け、禁止の対象となる具体的な行為を意識し日々のケアや関わりを振り返り、職員一人ひとりが自覚と責任を持ち互いに注意喚起しながら発生の防止に努めている。マンション玄関はオートロックであるが、各フロアは施錠をせず自由に行き来出来るようにしている。	身体拘束をしない指針やマニュアルを整備し、内部・外部研修及び伝達講習を通じて身体拘束の弊害について学び理解している。毎月のフロア会議で、身体の変色シートなどを用いて身体拘束に該当するか話し合いながら注意喚起をしている。マンション玄関はオートロックであるが各ユニット階は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修にて学ぶ機会を設けている。入居者の身体の様子は都度記録し、申し送りでも確認している。「もしかして…これって虐待?」という意識と、日々のケアを振り返り、職員同士注意喚起し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修にて学ぶ機会を設けているが、十分とは言えない。更に制度の理解を深められるよう学んでいきたい。現在、成年後見制度(保佐人・後見人)を利用している方が二名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には契約書や重要事項等で説明し、利用者やご家族の不安や疑問点を聞き、十分な話し合いを心掛けている。また、契約後も連絡、相談をしながら、理解、納得の上サービスを利用して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見や要望をくみ取れるよう意識し取り組み、ご家族に対しては話しやすい雰囲気作りと都度尋ねることに努めると共に、家族会での意見交換や年1度アンケート調査を実施している。要望があった時には話し合い、記録に残し速やかな改善に努めている。また、言いにくい時には外部機関があることも知らせている。	家族会があり、運営推進会議後に家族会を開催している。他に事業所独自のアンケート調査や面会簿の記載欄に家族からの意見の記述欄を設けるなどで意見や要望を聞く機会を設けている。毎月の「さとほろだより」送付時に、担当職員が利用者一人ひとり個別に写真付きのお便りも同封して近況を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロア会議、自己評価、個別面談、日々の勤務に於いて、職員の意見や提案、思いを聞き取るよう努めているが、それらを十分に反映することは出来ていないと思う。職員一人ひとりが向上心を持って質の高いケアを提供し、入居者の皆さんと共に、学び支え合える関係を築けるよう努力していきたい。	毎日の申し送り時、全体会議・フロア会議などで、随時職員の意見や提案を聞く機会を設けている。年2回の個人面談(前期は目標設定、後期は目標の進捗状況と評価)で話し合う時に、職員から意見や提案を聞いている。管理者は日々の勤務においても、職員の話聞き、助言・指導を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努めていると思うが、現場との温度差があり、職場環境や条件の整備には結びついていないと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた採用時研修、毎月の勉強会、現場に於いての実技指導。経験年数に合わせた外部研修義務参加、また、希望による外部研修参加、資格取得を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区のグループホーム管理者連絡会やスタッフ勉強会に参加し、交流の機会、ネットワークづくりに努めている。同地区のグループホームとは行事等を通して交流の場を持ち、互いに訪問し合えるようになっているが、まだまだ十分とは言えない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの相談、意向が中心となってしまうことが多いが、可能な限り本人に尋ね、思いを知り、不安の軽減、安心してもらえるよう早期の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人よりもご家族の方が心配事や不安なことを抱えているケースが多い場合があり、ご家族の思いをよく聴き、その思いを受け止め、安心してもらえるよう、こまめな報告、連絡、相談にて信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望されて来られるケースがほとんどであるが、相談時には本人、家族の思いを聴き、必要時には他のサービスの説明もしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす時間の中で、人として気づかされ教えられることがたくさんある。重度化しても「これは出来る」を探すことを意識し、先に歩み、多くの苦勞と多くのものを築いてこられた人生の大先輩として、常に敬う気持ちを忘れずに、互いに学び支え合う関係を築いていきたい。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支えていきたいことを伝え、これまでの本人とご家族との関係を大切にしながら、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会は頻回にあり、親戚や知人の面会もある。重度化やご家族の高齢化や病気等により、馴染みの場所への外出の機会は少なく、一部の方に限られてしまうが、ご家族からの情報や本人との会話の中で、大切な場所や人、思い出を想起できるよう努めている。	利用者に地元出身者が多いため、家族や親戚、知人などの訪問も多い。訪問者がゆっくり話ができ寛げるように配慮し、食事も提供し会食をしている。家族と一緒に墓参り・法事・買い物・馴染みの場所に行く時は、職員も同行したり送迎支援をしている。電話や手紙での通信支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの認知度や性格、それぞれの関係等に配慮しながら、和やかな雰囲気の中で語り合う機会、レク活動や作業を通じて良好な関係が築けるよう仲介支援し、共に穏やかに楽しく過ごせる時間の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退居された方へは、お見舞いに行き関係を継続することに努めている。また、死去により退居されたご家族の訪問、差し入れを頂いたり、手紙のやりとり等でつながりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、よく話をすることを心掛け、希望や意向の把握に努めている。また困難な方にも日々の様子や表情、言動等から思いをくみ取るよう努め、ご家族、職員と相談しながら本人の思いに添えるよう努力している。	入居時に家族から生活歴や思いなどの聞き取りを行い、アセスメントをしている。一人ひとりに寄り添い話を聞き、表情や行動から本人の意向や希望の把握に努めている。情報は職員間で検討し、利用者本人の立場に立って考え支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りと合わせ、可能な限りの情報提供をお願いし、その後もご家族、本人とのコミュニケーションから把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々アセスメントし個々のケアプランに添った関わりの記録、個別の申し送りや引き継ぎ等を通して、心身の状態や言動、新たな気づき等の把握に努め、情報を共有し柔軟に対応出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人(可能な方)、ご家族、主治医、看護師と相談しながら、担当職員を中心に、毎月フロア会議で話し合い、介護計画を作成している。意思表示が困難な方には、ご家族の意向をもとに本人本位の介護計画の作成に努めている。	担当職員を中心に本人・家族の意向を聞きながら看護師や医師からの助言を受け、全職員が毎月フロア会議などで話し合っている。生活記録による日々のモニタリングと2ヶ月に1度の短期目標のモニタリングをもとに、介護計画は4ヶ月に1度担当職員を中心に検討し、介護支援専門員が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを反映した日々の記録や評価、その時々での気づきや工夫、実践方法や結果など、個人申し送りや介護日誌を通して、個々の状況や情報を共有し、アセスメントや介護計画の見直しに活かし日々のケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・受診時には看護師の同行定着、必要時にはご家族の同行。 ・事業所の介護タクシーを利用しての受診や外出支援。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事には積極的に参加し、ボランティアの受け入れ、民生委員、消防の方には運営推進会議や避難訓練にて協力を得ている。また、ご家族と共に買い物や外食に行く等、社会とのつながりを大切にしているよう支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、協力病院を伝え変更希望を確認し、変更の際には医師からの添書で医療の継続を支援している。また、受診時のご家族の同行や受診後の報告でも適切、安心した医療が受けられるよう支援している。	提携医による月2回の訪問診療、在宅診療所からの往診、週1回の訪問歯科、随時の皮膚科など体調に合わせ、随時往診を受けている。入居前からのかかりつけ医には家族が同行し、受診前後の情報交換を行う適切な医療が受けられるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による日常的な健康管理、さまざまな症状について相談、処置、指導等を受け支援している。受診や往診時には看護師が窓口となり、医療機関と連携している。また、必要時には迅速な受診 往診ができるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を提出し、出来るだけ面会に行き、本人が安心して治療を受けられるよう支援している。都度ご家族の意向を確認しながら、病院または関係者と情報交換を行い、早期退院が出来るよう努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプラン見直しの際、または状態の変化に伴い、現状と今後考えられる状況、ホームで出来ることについてご家族に説明し、意向を確認、書面にて同意を得ている。また状態に合わせご家族と医師、看護師と話し合いの場を設け、全職員が方針を共有出来るよう都度話し合い取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期に向けた指針や対応について説明をしている。日頃から本人や家族に希望や意向を伺い、重度化した場合や終末期には家族・医療関係者とともにチームで支援に取り組み、看取りの実施を含め最善の方法がとれるように努めている。開設から10名以上の看取り支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア会議や勉強会、外部研修等で学ぶ機会を設け、確認し合っているが、まだまだ十分とは言えない。全職員が対応出来るよう更に学びの場を設けていきたい。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や町内会の方の協力を得て、年2回夜間、日中の出火を想定した避難訓練、救助方法の実践を入居者(可能な方)と一緒に、地震時の対応、避難方法についても確認。また、マンション内での消火器使用の実践や外部研修に随時参加し実践訓練を行っている。水害を想定しての対策 訓練は行っていない。	年2回消防署の指導の下、夜間・日中を想定した火災避難訓練を行っている。マンション内の防火訓練に参加し、マンションや近隣住民にも協力を得て、隣接するグループホームと協働で訓練を行っている。防災点検表で毎日チェックをしながら防災に努めている。災害時の備蓄・緊急連絡網を整備している。	事業所がマンションの3・4階であることや高齢化で利用者の身体状況からみても介護度が高く、介助に多くの人手が必要である。災害時に安心・安全・スムーズに避難できるためには多くの困難が予想される。防災や避難経路の確保と確認、他の自然災害についても対応・訓練を期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者の立場に立ち、言葉掛けや対応に気をつけることを心掛けてはいるが、配慮に欠けてしまうこともあると思う。言葉使いや対応への苦情があり、職員間で見直しお互いに注意し合える関係作りを努めている。	人生の先輩として、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応をしている。配慮に欠けることがないよう職員間で見直し、互いに注意し合えるようにしている。書類は書棚に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化に伴い意思の疎通が難しい面もあるが、話しやすい雰囲気づくりを心掛けるとともに、個々に合わせた話し方や問い掛けの工夫で、希望や選択を表出出来るよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化に伴い職員側のペースになることもあるが、対応可能または体調に影響のない範囲で本人のペースを優先している。また、その時々気分や体調に合わせて、優先順位を正しく見極め、楽しみや励みにつながる関わりを意識し、支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	尋ねることを心掛け出来るだけ一緒に選べるようにしているも重度の方が多く職員サイドの支援になりがちな面もある。衣類の汚れには気を配り、洗面後や入浴後の整容等で、その人らしい潤いのある生活が送れるよう心掛けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を献立に反映させたり、個々の力量に合わせ、下ごしらえ、味見、下膳、食器拭き等と一緒にしている。会話も大切に、楽しい食事時間の共有を心掛けている。	食材は食品リストから選び業者から購入するが、献立は利用者の好みを取り入れている。利用者の出来る範囲で食事づくりに参加し、職員と共に和やかに食事をしている。身体状況に合わせて刻み食やペースト状など食事形態を替える工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や性別、活動量や体重の安定を配慮し、量や栄養のバランス、一品目でも多く摂取出来る献立を工夫し提供、毎日の飲食量を記録している。また、個々の状態に合わせ食事形態や食器類の工夫、目でも楽しめる内容、楽しく食せる雰囲気作りも心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の方と夕食後のみの方がいるが食後には十分な水分摂取の支援を行い、個々に必要な内容(見守り、一部手助け、歯間ブラシや舌ブラシ等の活用)で口腔ケアを実施している。また、希望者には定期的に訪問歯科衛生士による口腔チェック、口腔清掃、嚥下体操等を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化に伴い、時間ごとの手助けが主になってはいるが、個々の排泄パターンを把握し、必要最小限のパンツ使用を心掛けている。水分摂取量も考慮しながら、一人ひとりに合わせた誘導と手助けで、可能な限りトイレやポータブルトイレを使用し、出来るだけ失敗につながらないように支援している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、排泄間隔、しぐさや表情からトイレ誘導を行っている。身体状況に合わせ介助が必要な方は居室のポータブルトイレを使用している。リハビリパンツから日中は布パンツ着用へ替わり、一日中布パンツ使用へと排泄の自立へ向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握しながら、飲食物の工夫や腹部マッサージ等も行い便秘予防に努めているが、高齢や重度化に伴い自然排便が難しくなっている。医師の指導のもと服薬や座薬の調整でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせて、皆が平均的に入浴出来るようにしている。また、汚染等で必要時には臨機応変に対応出来るよう支援している。不調などで入浴が困難な時には、清拭や足浴、手浴、ドライシャンプー等で対応している。また、楽しい入浴が出来るよう会話や香りにも配慮している。	入浴日を特定せず午後の時間帯の入浴を基本に、体調や希望、タイミングに合わせて週2回以上の入浴支援を行っている。体調不良の時は清拭、足浴、ドライシャンプーなどで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、年齢、生活リズムを考慮しながら、温湿度や寝具、衣類、周囲の音や臭い等にも配慮し安心して休息、眠れるよう支援している。また、夜間眠れない時には、寄り添い傾聴、スキンシップ、安心出来る場所への移動や飲み物の工夫等に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は複数で行い、可能な限り本人にも確認してもらっている。処方箋や申し送りにて目的、用法、副作用等の理解に努め、薬が変わった時には特に注意を払い、変化のある場合には医師、看護師に報告、相談し適切な処方の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化に伴い難しい面もあるが、可能な範囲で個々の出来る力を発揮出来るよう、会話、作業、レク、趣味や特技を活かせる時間と場の提供に努め、個々の楽しみ、集団での楽しみを工夫しながら、役割りや楽しみごとを自信や励み、喜びや楽しみにつながるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調や体力に応じて、出来るだけ散歩や買い物、農園での収穫、ドライブ等で外気に触れ季節を感じ、気分転換が出来るよう支援している。ほぼ毎月季節に応じた外出行事の実施と合わせ、さとほろ三人行事(新年会・お花見・敬老会)では、ホテルや回転寿しで、ご家族と共に会食を楽しんでいる。また、ご家族とお墓参りや買い物、外食等の外出も行われている。	市の中心部にあり、宮の森住宅街、近くの円山公園や北海道神宮への散歩や、スーパーでの買い物、盤溪にある借り農園などへ日頃から外気浴を兼ね外出をしている。一人ひとりの体調や体力に合わせ、気軽に出かけ気分転換を図れるようにしている。ホームの三人行事である新年会・お花見・敬老会などには家族にも協力を得て一緒に楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム立て替え、後日請求にて対応している。買い物支援では千円以内の買い物を自分で考え商品を選ばれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけ、ご家族からの電話を仲介する等している。また、毎年個々の写真入り年賀状を作り、ご家族や知人へ送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が狭く限りはあるが(特に浴室は段差があり狭く寒い)、家庭的な雰囲気大切にしながら、入居者と一緒に制作した物や個々の写真を飾ったり、季節ごと、行事ごとの飾り付けの工夫をし、生花等で四季を感じ心地よく過ごせるよう工夫している。また、その時の状況に合わせてCDやFM放送で音楽を流している。都度の換気や消臭剤の使用で室温や臭いにも気を付けている。	マンションの3階・4階のワンフロア全てが一つのユニットになっていて、居間・浴室・台所などフロア全体を見渡すことが出来、家庭的な雰囲気が感じられる。居間兼食堂には中央に温もりのある大きな木のテーブルがあり、食卓や手芸飾り物を作る時の制作、新聞を読む机などに使われている。壁で仕切られた隣にはソファが置かれ、ゆったりとテレビを見ることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安心、安全を考慮しながら、狭いながらも玄関やテレビ室にソファを置き思い思いに過ごせる工夫を心掛けている。また、食卓での席もその時々状況に合わせて交換する等工夫はしているが、共用空間が狭いのと、車椅子の方が増え十分ではないと思う。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して過ごせるよう、自宅で使用していた家具や装飾品、家族の写真等、ご家族の方にコーディネートしてもらおう等で、心地良い空間作りの工夫をしてはいるが、入居年数の経過に伴い物品が増え、収納にも限りがあり手狭になることもある。	居室には本人の使い慣れた家具や飾り物、家族の写真・仏壇などを持ち込み、家族とも相談しながら配置して居心地良く生活できるように配慮している。入居期間の長い方が多く、それぞれの居室に個性が感じられ自分らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	賃貸マンションで、改築型のホームのため段差が多く限りはあるが、手すりの設置、安全を考えての踏み台、滑り止め、ポップで場所を知らせる、家具の配置や高さ等の調節で工夫はしているが、重度化に伴い十分とは言えない。		